

レジメンスケジュール

診療科	血液内科
適応	多発性骨髄腫
レジメン	血内MM EPd療法

申請・改訂日	2023年3月
備考	

クール関連	
-------	--

使用した臨床データ	
適正使用ガイド	

1~2クール目(28日/クール)																			
投与順	抗がん剤	薬品名	投与量	投与方法	時間・速度	備考	day1	day8	day15	day22	day28
①	○	デキサメタゾン	28mg 75歳超8mg	内服		エロツズマブ投与前3~24時間前に内服	○			○			○			○			
②		デキサメタゾン注	6.6mg	メイン	15分	エロツズマブ投与前60分前から投与	○			○			○			○			
		クロルフェニラミン注	5mg				○			○			○						
		ファモチジン注	20mg				○			○			○						
		生理食塩液	50mL				○			○			○						
		アセトアミノフェン	300-1000mg	内服		エロツズマブ投与前30~60分前に内服	○			○			○			○			
③		生理食塩液	50mL	メイン	45分	前投薬終了後~エロツズマブ開始までのつなぎ	○			○			○			○			
④	○	エロツズマブ	10mg/kg	メイン	※※次頁参照 0.5~最大5mL/min	要フィルター	○			○			○			○			
		注射用水	※				○			○			○						
※300mg/Vは注射用水13mLで、400mg/Vは注射用水17mLで溶解(25mg/mL)、必要量を採取。50kg未満は生食150mLで、50kg以上90kg以下は生食250mLで、90kg超えは生食350mLで希釈すること																			
※※Infusion reactionに注意しながら、初回は0.5mL/minで開始。問題なければ30分毎に段階的に1mL/min、続いて2mL/minまで上げることが可能。2回目は3mL/minで開始し30分後に4mL/minまで上げることが可能。																			
※※3回目以降は最大5mL/minで投与可能。																			
⑤		生理食塩液	50mL	メイン	投与終了時の速度で	フラッシュ用	○			○			○			○			
⑥	○	ボマリトミド	4mg	内服			day1-21内服(3投1休)												

3クール目以降(28日/クール)																			
投与順	抗がん剤	薬品名	投与量	投与方法	時間・速度	備考	day1	day8	day15	day22	day28
①	○	デキサメタゾン	28mg 75歳超8mg	内服		エロツズマブ投与前3~24時間前に内服	○			40mg 75歳超20mg			40mg 75歳超20mg			40mg 75歳超20mg			
②		デキサメタゾン注	6.6mg	メイン	15分	エロツズマブ投与前60分前から投与	○												
		クロルフェニラミン注	5mg				○												
		ファモチジン注	20mg				○												
		生理食塩液	50mL				○												
		アセトアミノフェン	300-1000mg	内服		エロツズマブ投与前30~60分前に内服	○												
③		生理食塩液	50mL	メイン	45分	前投薬終了後~エロツズマブ開始までのつなぎ	○												
④	○	エロツズマブ	20mg/kg	メイン	※※次頁参照 0.5~最大5mL/min	要フィルター	○												
		注射用水	※				○												
※300mg/Vは注射用水13mLで、400mg/Vは注射用水17mLで溶解(25mg/mL)、必要量を採取。50kg未満は生食150mLで、50kg以上90kg以下は生食250mLで、90kg超えは生食350mLで希釈すること																			
※※Infusion reactionに注意しながら、1回目は3mL/minで開始し30分後に4mL/minまで上げることが可能。2回目以降は最大5mL/minで投与可能。																			
⑤		生理食塩液	50mL	メイン	投与終了時の速度で	フラッシュ用	○												
⑥	○	ボマリトミド	4mg	内服			day1-21内服(3投1休)												

減量・中止基準		
ボマリトミド(添付文書より)		
副作用	程度	処置
血小板減少	25000/mm3未満	50000/mm3以上に回復するまで休業後、休業前の投与量から1mg減量して再開する。再開後に再び発現した場合は同様の対応とし、1mgに減量した後も発現した場合は本剤の投与を中止とすること。
好中球減少	500/mm3未満に減少またはFN	1000/mm3以上に回復するまで休業後、休業前の投与量から1mg減少して再開する。G-CSF製剤を使用していない場合は使用を考慮すること。再開後に再び発現した場合は同様の対応とし、1mgに減量した後も発現した場合は本剤の投与を中止とすること。
皮疹	G3	G1以下に回復するまで本剤を休業し、再開は休業前の投与量から1mg減量すること。再開は患者の状態に応じて判断すること。再開後に再び発現した場合は同様の対応とし、1mgに減量した後も発現した場合は本剤の投与を中止とすること。
	G4または水泡形成	本剤の投与を中止とすること。
その他の副作用	G3以上	G2以下に回復するまで本剤を休業し、再開は休業前の投与量から1mg減量すること。再開は患者の状態に応じて判断すること。再開後に再び発現した場合は同様の対応とし、1mgに減量した後も発現した場合は本剤の投与を中止とすること。
エロツスマブ(適正使用ガイドより)		
副作用	程度	処置
Infusion reaction	G1	回復するまで投与速度を0.5mL/minとする。患者の忍容性が十分に確認された場合には、30分ごとに0.5mL/minずつ投与速度をあげることができる。
	G2	直ちに投与を中断すること。G1以下に回復した場合には、投与速度を0.5mL/minで再投与できる。患者の忍容性が十分に確認された場合には、30分ごとに0.5mL/minずつ投与速度をあげることができる。ただし、Infusion reactionが発現した投与回では、発現した投与速度を超えないこと。再投与後にInfusion reactionが再発現した場合には、直ちに投与を再中断し、中断日に再投与をしないこと。
	G3	直ちに投与を中断すること。原則再投与をしないこと。
	G4	直ちに投与を中止とすること。
投与速度基準(適正使用ガイドより)		

【投与速度】

本剤は0.5mL/分の投与速度で点滴静注を開始してください。

患者の忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら、投与速度を以下のように段階的に上げることが可能です。ただし、投与速度は5mL/分を超えないよう設定してください。

10mg/kg投与時の投与速度

投与時期	投与速度 (mL/分)		
	投与開始 0~30分	投与開始 30~60分	投与開始 60分以降
第1サイクル	初回投与	0.5	2
	2回目投与	3	4
	3及び4回目投与	5	
第2サイクル以降	5		

20mg/kg投与時の投与速度(ボマリトミド及びデキサメタソン併用時、第3サイクル以降)

投与時期	投与速度 (mL/分)	
	投与開始 0~30分	投与開始 30分以降
1回目投与	3	4
2回目投与以降	5	